

取組項目 No.14 地域住民と多様な主体が連携した地域コミュニティの再生

〔取組概要〕

- 岩手県の被災地においては、個別訪問や見守り活動など応急仮設住宅等における支え合い体制の構築や、NPOや社会福祉協議会による交流の場づくりなどが行われています。被災者一人ひとりに寄り添ったこうした支援は、地域住民の力に加え、若者、女性、企業、NPO、行政などあらゆる主体が連携して取り組んでおり、地域コミュニティ再生の大きな力となっています。
- 特に、東日本大震災津波の直後やその後の復興の中で、高校生・大学生や社会人など県内外の多くの若者が何かしなければならぬと立ち上がり、まちづくり活動やボランティアなどで活躍しています。このような未来を担う若者たちの活躍は、復興に取り組む県民を励まし、未来への希望を感じさせます。
- 本県では、こうした若者たちの思いと行動に応え、若者たち自らが企画・実行する復興に関する優れた提案に助成する制度を創設するなど、若者を支え、若者の背中を押し、若者が活躍できる地域づくりを進めています。
- また、女性の力が復興と豊かな地域づくりには必要不可欠です。復興に女性の視点を反映させるよう「岩手県復興委員会女性参画推進専門委員会」を設置するとともに、女性が社会的な活動の場等に、より一層積極的に参加しやすい環境の整備などを図りながら、復興に男女共同参画の視点を取り入れることの重要性についての普及啓発に取り組んでいます。

取組事例 ① 応急仮設住宅等における支え合い体制の構築について

応急仮設住宅等における支え合い体制の構築のため、市町村、NPO等と連携し、生活支援相談員や仮設団地支援員による個別訪問、安否・見守り活動や生活相談等の支援を実施しています。

「応急仮設住宅運営に当たってのガイドライン」や「災害公営住宅等における見守り事業実施の手引き」などのマニュアルを作成し、市町村に配布するなど自治会の設置を促進しました。



生活支援相談員による見守り活動の様子【宮古市】

取組事例 ② NPO等による交流の場づくりについて

応急仮設住宅等では、NPOや社会福祉協議会が「お茶っこ会」などを開催し、住民が気軽に集い交流できる場をつくり、孤独化の防止やコミュニティの形成を促進しています。



「山岸いどばだカフェ」の様子【大船渡市】



「ひだまり塾」の様子【大槌町】

取組事例 ③ 応急仮設住宅等における高齢者等の生活支援について

応急仮設住宅等における高齢者や障がい者といった要援護者を中心に、見守り活動や総合相談、配食、デイサービス等を行うサポートセンターを整備しました。

また、高齢者が気軽に参加できる運動教室や健康相談会を継続的に開催し、仮設住宅住民と地域住民の交流や、健康維持、生活不活発発病の予防を図る取組を実施しています。



健康体操の様子【陸前高田市】

取組事例 ④ 災害公営住宅の集会所の整備について

災害公営住宅の集会所については、入居者相互の交流や、地域住民との交流を視野に入れ、通常の公営住宅の集会所より広めに整備しています。



県営豊間根アパート集会所

取組事例 ⑤ 災害公営住宅の入居者のグループ単位での募集について

災害公営住宅の入居者募集に際しては、住民のコミュニティの維持に配慮するため、グループ募集などを実施しています。

取組事例⑥ 若者の活躍を支援する仕組みの創設について

若者たちが自ら企画・実行する復興に関する優れた提案に助成する制度を創設し、未来を担う若者を支援し、若者が活躍できる地域づくりに取り組んでいます。

岩手県野田村では、東日本大震災津波からの復興と鎮魂の願いを込め東北太平洋沿岸の各地で一斉に開催される花火大会と連動し、若者団体「LIGHT UP NIPPON 野田村実行委員会」が、イベント列車の運行企画や野田中学校での復興と未来を考える特別授業の実施などの活動が行われ、県が助成しました。



助成対象となった野田村でのイベント

取組事例⑦ 女性の視点を復興に生かす取組について

復興計画の策定やその実施に女性の視点を取り入れるため、県では平成23年から県内の各分野で活動している女性有識者と意見交換会を開催しました。

平成26年度からは、この取組を発展させ、東日本大震災津波により著しい被害を受けた本県の復興に関する事項を調査審議する「岩手県東日本大震災津波復興委員会」に女性参画推進専門委員会を設置し、女性の視点を復興に生かす取組を推進しています。



女性参画推進専門委員会【盛岡市】

防災や復興に男女共同参画の視点を持って取り組む地域住民等が増え復興が進むよう、県では、平成25年度から講演とワークショップを組み合わせた「防災・復興について考えよう～男女共同参画の視点から～」を開催しています。



男女共同参画視点からの防災・復興ワークショップ【宮古市】

取組事例⑧ 若者や女性が主体となった復興の取組について



応急仮設住宅が狭く、受験勉強等を行なう中・高生の学習環境の整備が必要なことから、NPOが学習できる施設を設置し、放課後の居場所、学習支援活動を地元の塾講師や大学生等と協力し実施しています。

放課後学習の様子【陸前高田市】

大槌町吉里吉里で、「人の集う場所をつくりたい」との思いで始めた仮設食堂「よってったんせえ」は、女性グループが復興に向けて立ち上がり、平成23年8月に地域でいち早くオープンしました。

食の提供だけでなく、地域の方々の交流の場として笑顔と元気を発信しています。



よってったんせえ食堂の皆さん【大槌町】

コラム

公益財団法人さんりく基金による被災地支援

- 公益財団法人さんりく基金：三陸地域及びその周辺地域の振興を図るため、産学官民の研究交流及び市町村等の主体的な取組を支援することを目的に平成6年設立。
- 平成25年度は、被災地の復興を担う沿岸事業者等の事業強化に向けた支援及び被災地を中心とする地域コミュニティ再生への支援等を実施。
- 支援事例：被災地青少年育成事業
 - ・ 目的 沿岸被災地の青少年育成活動に当たっての諸課題解決に向けた活動経費を支援
 - ・ 内容 備品・設備購入費など、育成活動の課題解決に向けた活動経費の一部を助成
 - ・ 助成事例 鵜住居野球スポーツ少年団（釜石市）



東日本大震災津波によりスポーツ少年団の活動拠点を失い、他校の校庭やグラウンドを借りて練習していたが、雑草地を練習場所として借用できることとなり、グラウンド整地工事を実施。父兄のアイデアでグラウンドに鯉のぼりを飾るなど、地元へのアピールも成功し、多くの子ども達が入団した。